「木岡哲学塾」参加のご案内

本塾は、考えることが好きな人、〈生きる知恵〉を哲学に求める人に、哲学とは何かを体験する機会を提供します。大学などで学ぶ人はもちろん、これまで「哲学」に接した経験のない人、専門知識のない人を特に歓迎します。

[趣旨]
上半期（春期）のテーマは、「哲学とは何か」。世間でイメージされている「哲学」の知識を教授するのではなく、「自分のテーマを自分で考え、自分の言葉で表現する」という、本来の哲学を実践する。各回2時間の前半は、各自が自分で考えるための材料を提供する、レクチュア（50分）。講義内容は、これまで世に流通してきた哲学に替わる新たな学問、主宰者の提唱する「風土学」への導きとなることをめざす。休憩（10分）をはさんで後半は、参加者から出されたテーマをめぐる「哲学対話」（60分）。希望があれば、意見発表・討論も随時取り入れる。
下半期（秋期）の講義テーマは、「時間とは何か」。「時間」は、誰にとっても身近な関心の対象でありながら、その本質が謎とされてきた問題。古今東西の時間論を取り上げ、たがいの共通点や相違点を明らかにすることによって、どこに生きる人々にとっても、時間が重要なテーマとなることを明らかにする。前後半の時間配分は、春期に同じ。後半の哲学対話は、参加者による発表・討論が中心となる。

[参加資格・条件]
年齢・身分・学歴・職歴を問わず、上記の趣旨に賛同される方。哲学などの知識や学習履歴はいっさい不問。知識・教養よりも、自分のテーマに沿って〈生きる知恵〉を哲学に期待する方。イメージとしては、毎回の「エッセイ」を、興味をもって読んでくださる方。
参加費（資料代・お茶代）は、各回500円（ただし、毎回の出席を要求するものではありません）。

[申込手続き]
参加希望者は、参加したい理由を添えて、主宰者まで口頭もしくはメール等によって申し込んでください。
募集人数は10名（先着順）。オフィス・アワー（次項）での来談歓迎。

[オフィス・アワー]
金曜午後2時－5時を、「オフィス・アワー」として、広く開放します。大学のオフィス・アワーは、学生が事前予約なしに研究室を自由に訪問できる制度ですが、当方の場合、来談者が重ならないよう、メールでの事前予約をお願いします（n. kioka@s3.dion.ne.jp）。

春期・秋期のプログラムおよび予定日（いずれも隔週水曜18：30〜20：30、事情による変更もあり）を、以下に示します。

2021年度木岡哲学塾［春期］：「哲学とは何か」

「哲学」とは何だろうか。「自分のテーマを自分で考え、自分の言葉で表現する」ことである。この考えに沿って、参加者各自が、それぞれのテーマをそれぞれの流儀で考え抜くための実践に取り組む。前半の講義（50分）は、自分で考えるための材料となるテーマ、考え方のサンプルとして、主宰者自身の「風土学」を取り上げ、その内容を紹介する。後半の哲学対話（60分）では、講義内容や各自の疑問に即したテーマを取り上げ、どこまで考えが深められるかに挑む。メンバーが希望する場合には、後半の全体を研究発表・討論に充てることもある。

１　「考える」とは？（4.9）
考える手がかりは、私たちの周りにいくらでもある。何かを考えることと「哲学する」こととは、同じことだろうか。同じでないとすれば、何がどう違うのか。参加者が、それぞれに関心のあるテーマを持ち寄って、議論を繰り広げる「哲学対話」の試み。

２　私・世界・人生（4.23）
「私はこの世界に生きている」という、ごくごく当たり前の事実がもつ意味を、私・世界・人生という三つの要素に分け、それぞれがいずれも哲学の問いとして、容易に答えの出ない重要な謎を含んでいるということを確かめる。

３　〈私〉の不思議（5.7）

〈私〉とは何ものか？〈私〉はなぜ、いかにして存在するのか？人間は昔から、最も哲学的とも言えるこうした問いを、自身や周囲に投げかけ、答えを出そうと努めてきた。この問いがもつ意義を、一人一人が追究する。

４　「風土」としての世界（5.21）
ふつう「環境」と呼ばれる周囲の世界は、人々の集う社会と自然とから成る。人間と自然が一体になった世界を「風土」と呼ぶ、風土学の基本的な立場を説明して、「世界に生きる」ことの意味を考え直す。

５　自己と他者（6.4）
私という〈自己〉は、私以外の〈他者〉から独立していて、自己と他者は切り離されて存在する。このような「二元論」の常識が、どのようにして成立したのか、二元論的でない考え方がありうるのか、を検討する。

６　〈あいだ〉を開く（6.18）
自己と他者、心と身体、人間と自然、こうしたものを根本的に区別する二元論に対して、風土学は対立する二者の中間（あいだ）を開く。〈あいだ〉とは何か、〈あいだを開く〉ことが、どうして必要なのかを考える。

７　〈出会い〉と〈縁〉（7.2）
人と人の〈あいだ〉は、〈出会い〉によって開かれる。出会って、たがいの違いを認め合うと同時に、自他の結びつきを確認することによって、〈縁〉が結ばれる。風土学最大のテーマ〈出会い〉（邂逅）と〈縁〉の意義を明らかにする。

８　総括討議（7.16）
「哲学とは何か」をめぐって、各自が考え、導き出した答えは、どういうものだったか。それぞれの発見したことや、残った疑問を提出し合い、全員で検討する。

2021年度木岡哲学塾［秋期］:「時間とは何か」

哲学の世界では、古来、「時間とは何か」が根本問題として問われ、論議が重ねられて、今日に至っている。私たちの日常生活でも、「時間とは何か」を直接に問うことはないとしても、時の経過をしじゅう気にかけるなど、時間に注意を奪われ、いわば「時間に支配される」生き方を余儀なくされている。偉大な哲学者たちが論じ続けてきながら、いまなお答えの出ないテーマ――時間。それに答えを提出しようとする意図まではなくとも、参加者がそれぞれ「時間」の問題に注意を向けることによって、それを考えることにどのような意味があるのかを、理解することをめざす。後半の「哲学対話」は、参加者の希望に応じて、研究発表と討論に充てる予定。

１　時間と〈私〉（9.10）
各自がこれまで体験してきた「時間」の意味を、それぞれの言葉で語り出し、意見を交換する。時間を考えることの意義にふれた人々の発言を手がかりに、それぞれの時間についての理解や疑問点を付き合わせて検討する。

２　瞬間と持続（9.24）
主宰者が、若き日に取り組んだベルクソン哲学、その中心思想は「持続」。時間の連続を否定する「瞬間」の問題に目覚め、以来、ほぼ半世紀を費やして今日に至った、自身の研究歴を振り返りながら、連続と非連続の関係を考える。

３　時間の比較社会学（10.8）
人間社会は、それぞれの世界に適合する時間の観念をつくり出し、それに一致する生活を営んできた。直線的な時間、循環的な時間など、古今の代表的な時間観念を取り上げ、それがどのようにして成立したのかを考える。

４　近代の時間意識（10.22）
科学技術の発達により、空前の「進歩」を遂げた西洋近代世界。その「進歩」は、直線的時間の図式と深く結びついている。現代人の常識の底にある時間観念が、近代に生まれたフィクションであるゆえんを解き明かす。

５　仏教の時間意識（11.5）
仏教的な「輪廻」に代表される反復的・循環的な時間は、西洋近代の直線的時間と鋭く対立する。仏教にはもう一つ、「刹那滅」と呼ばれる特殊な考え方が存在する。「輪廻」「刹那滅」の考えが、どうして成り立ったのかを明らかにする。

６　「瞬間」とは何か（11.19）

ここまで検討してきた東西の時間観念をふまえ、ほぼ同義とされる「瞬間」と「刹那」の共通点と相違点を明らかにする。両語の意味の重なりと食い違いは、そのまま東西両世界の共通性と差違にほかならないことを示す。

７　〈邂逅〉の条件（12.3）

東西の時間論を比較して、共通の地平を開くことは、二つの世界が出会う（邂逅する）ために必要不可欠な手続きである。〈邂逅〉の条件となる時空のあり方を、風土学の立場と目的に沿って明らかにする。

８　総括討議（12.17）

参加者が年間の講義から得た成果や疑問を、それぞれが披露し、今後に向けてのテーマを確認するための対話を展開する。

先月お知らせしたとおり、2021年度「木岡哲学塾」のスケジュール（春期・秋期）をお示しし、参加者を募集します。「趣旨」「参加資格・条件」は、先月記したとおりですが、若干の加筆があります。参加を希望される方は、参加したい理由・希望条件などを、事前に主宰者（木岡伸夫）までお知らせくださるようお願いします